

- ① 全国トップレベルの治療提供を目指して小児循環器センターが稼働しています。
 - ・診療科レポート「老年内科」
 - ・ナディック通信
 - ・新年のご挨拶
 - ・病院からのお知らせ
- ② 海外医療機関との学術交流を再開しました。
 - ・特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力をお願い
 - ・通院支援アプリのサービスを開始しました。
 - ・かわらばん HPのご案内

名古屋大学医学部附属病院

理念 ● 診療・教育・研究を通じて社会に貢献します。

- 基本方針 ●
- 1. 安全かつ高度な医療を提供します。
 - 2. 優れた医療人を養成します。
 - 3. 次代を担う新しい医療を開拓します。
 - 4. 地域と社会に貢献します。

〒466-8560 名古屋市長和区鶴舞町65番地 TEL 052-741-2111 (代表)

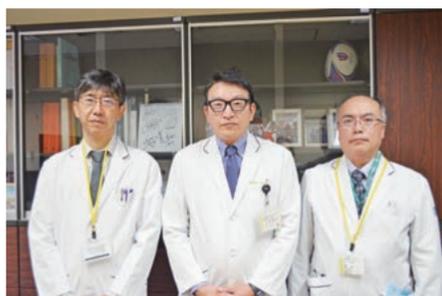
<https://www.med.nagoya-u.ac.jp/hospital/>

ホームページで「かわらばん」のバックナンバーをご覧いただけます

TOPICS ① 全国トップレベルの治療提供を目指して小児循環器センターが稼働しています。



2023年、名大病院に小児心疾患の患者さんを受け入れる小児循環器センターが設立されました。小児心臓外科医の櫻井一病院教授、小児循環器科医の大橋直樹病院准教授が着任し、本格的に活動を始めています。センターの目的や今後の展望などを伺いました。



▲(左より)小児循環器センターの大橋病院准教授、六鹿教授(センター長)、櫻井病院教授

先天性心疾患のお子さんは、およそ1000人に1人。重症心疾患では、25年前はそのうち8割が亡くなっていました。今は適切な手術を行えば9割が助かるようになりました。ただ、先天性心疾患には多数の種類があり、発症頻度も1%以下の重症例がいくつもあります。高い治療レベルを維持するには、医師が経験を重ねて知識や技術を共有することが重要で、今後、少子化が進めば医師の経験不足、治療技術の低下が起きるのではないかと危惧されています。当院は大学病院として人材を集める当センターで医師のレベ

名大病院だからこそ治療が完結できる

小児心疾患のトップセンターを目指して
名大病院は2016年より小児医療センターの確立を目指し、小児医療に重点を置いてきました。年々、少子化が進む中で、20年、30年先も高度な医療を地域へ継続して提供するために、専門性の高い医療技術や施設設備を集約させた拠点づくりを進めています。
その一環として、2023年「小児循環器センター」を起ち上げました。当センターには10名ほどの専門職を中心に、各プロジェクトチームで手術室の運用や外来の設置、心臓カテーテル検査室や小児集中治療室の新設などに取り組み、年度ごとに年齢別・難易度別に目標を立て、実績を評価しながら、安全に、そして着実に高度化を図っています。現在は心室中隔欠損症などの軽症例、成人先天性心疾患の治療から始めていますが、最終的には新生児の重症例にも対応できる全国屈指のトップセンターを目指しています。

すべての小児患者さんを受け入れられる拠点へ

当センターは今後、すべての小児患者さんを受け入れられる全国トップレベルの拠点を目指すと同時に、当院が掲げる他分野も含めた小児医療センターの構築に向けて、その一翼を担うことができればと考えています。現在の課題としては先天性心疾患の患者さんが成人後、無事に妊娠・出産ができるように支援する産婦人科医が全国的に少ないことが挙げられます。当センターの活動の幅を広げて、将来は愛知県でも安心して出産ができる環境を整えられればと思っています。
小児心疾患の領域はニッチですが、治療が必要な方は確実にいます。今後進んでいく少子化の中で子どもを命を守ることは非常に重要で、当センターの活動は社会的な使命を担っていると感じています。



▲先天性心疾患医療の専門医を中心に、名大病院ならではの高度な治療提供を目指す

小児循環器センターでは手術が必要な患者さんのための小児循環器外来を開設しています。小児心臓外科は水曜午後、小児循環器内科は木曜午後診察を行っています(予約制)。受診に関心のある方は、まずはかかりつけ医にご相談ください。

新年のご挨拶



病院長 小寺 泰弘

新年あけましておめでとうございます。

名大病院ではコロナ専用病棟の運用を終了し、難治疾患の患者さんを中心に高度な医療を提供するという本来の診療内容を中心に据えた従前の姿を取り戻しつつあります。病床稼働率、在院日数などの病院の経営指標も順調に回復・改善しており、ようやく病院全体の活気も戻ってきていると実感する今日この頃です。目先のトラブルへの対処に追われるばかりではなく、腰を据えて名大病院の発展を考えるフェーズが到来したと考えております。

とはいえ、新型コロナウイルス感染症が終息したわけではなく、また当院には罹患すると重症化のリスクがある患者さんが数多くおられることから、患者さんやそのご家族には通院や面会に際して引き続き不自由をおかけしております。そして、この4月からいよいよ突入する医師の働き方改革の運用に向けては、医師の労働環境を改善し、世界水準の医療の質と患者安全の継続について一層取り組んでまいります。本年も当院の取り組みへご理解・ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



事務部長 藤江 進

新年あけましておめでとうございます。

皆様お健やかに新年をお迎えのことと、心よりお慶び申し上げます。
さて、今年4月開始の「医師の働き方改革」に伴い、医療の質や安全を確保し持続可能な医療提供体制を維持することを目的とした時間外労働の上限規制等や健康確保のための面接指導、勤務間インターバル規制等の措置が適用されます。

当院はこれまで医師の勤務状況把握に努め、大学病院の役割である診療、教育、研究、そして医師派遣による地域医療提供体制の維持に対して大いに貢献していることを再認識したところです。

現状行っている308の医療機関への医師派遣を続けながら院内業務を見直し過重な時間外労働時間を短縮することが喫緊の課題であり、遵法のためにはさらなる取り組みが必要です。

患者さんやご家族におかれましてはご不便をおかけすることもあるかと存じます。

ご理解ご協力くださいますよう、よろしくお願い申し上げます。



看護部長 藤井 晃子

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年中は、新型コロナウイルス感染症が5類へと移行しましたが、インフルエンザ、プール熱など同時感染が発生したことから、皆さまにおかれては自主的な行動制限を継続されたことも多かったかと存じます。そのような中、当院では、withコロナとしての診療体制を工夫し、コロナ前よりも多くの患者さんへ診療を提供することができました。これも皆さまの多大なるご支援、ご協力のたまものごとでございます。誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。引き続き当院の看護部門においても、愛(やさ)しく、温かく、安全な看護実践のさらなる質向上に努めてまいります。

さて本年は辰年です。辰年は陽の気が動いて万物が振動することから、活力旺盛になって大きく成長し、新たな始まりやチャンスの年といわれているようです。すべての皆さまにとりまして、本年がすばらしい年となりますよう祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

当院では、2023年11月より外来通院をされている患者さんをサポートするため、通院支援アプリのサービスを開始しました。患者さんご自身のスマートフォンに専用アプリをインストールして、予約の確認、予約忘れ防止や診察状況の通知などのサービスを無料で受けられるものです。スマートフォンを持たない患者さんにはご家族が代わりに登録し、通知を受け取ることもできます。ぜひご利用ください。

★アプリの使用開始には当院内「アプリ専用窓口」で利用登録のお申し込みが必要です。詳しくは本専用窓口にお気軽にお尋ねください。

下記の「アプリ登録窓口」で登録をお申し込みください。

場所：外来棟1階 保険証受付横



通院支援アプリのサービスを開始しました

名大病院は海外の複数の医療機関と MOU（学術交流協定）を結び、国際的な医療人材の育成に取り組んでいます。COVID-19の流行に伴い職員の派遣を中断していましたが、2023年8月に本院病院長をはじめ関係職員が、ソウル大学病院とアサンメディカルセンターを訪問し各機関との交流を再開しました。ソウル大学病院とは MOU の再締結も行い、これまでの両病院看護部間の交流内容を振り返るとともに、新たな協定のもと今後の連携・協力の拡大について確認しました。今後も Web 会議で定期的な情報交換を継続し、職員の派遣・受け入れを進める予定です。このような継続的な国際交流を通じて、これからも国際的視野を持つ医療人材を育み、質の高い医療の提供に努めてまいります。



▲ソウル大学病院・当院の看護部による報告会（2023年8月）

海外医療機関との学術交流を再開しました

診療科レポート「老年内科」

老年内科長 梅垣 宏行



老年内科では、高齢の患者さんの専門的な診療を行っています。高齢期には、多くの疾患が併存するようになります。老年内科では、そうした多病を持った方を各専門診療科とも連携しながら診療を行います。多病がある、薬剤の数も増えることが多く、多剤併用（ポリファーマシー）の方も増えます。疾患をしっかりと治療・管理すること、とても重要ですが、薬剤の数が多くなりすぎると、副作用がやすくなるなどのデメリットが起ることがありますので、注意が必要になります。当科では、多病の併存した高齢の患者さんに対してより適切な医療の提供を目指しています。また高齢期には、認知機能の低下がおりやすくなり認知症の方も増えてきますが、認知機能の正しい評価にもとづいた適切な対応もしていきたいと考えています。また、入院診療においては、患者さんの身体機能や精神心理機能、社会的な背景も十分に評価して治療を行う高齢者総合機能評価を実施しながら診療を行っています。他の診療科に入院中の高齢患者さんに対しても、認知症ケアサポートチームなどの活動も含めて、より良い医療を受けていただけるようにサポートしていきます。

病院からのお知らせ

提案書からの改善報告

本院では、患者さんへのサービス・アメニティー等の満足度向上を目指し、患者満足度委員会において、院内に設置してある提案箱へ投函された提案書のご意見から、サービス改善策を検討し実施しています。

現在、1ヶ月あたり約50件のご提案をいただいております。提案書は、回収次第、現場で対応を進めるとともに、その後開催される委員会にて1件ずつ検討することで、院内のサービス向上に努めています。

サービス改善における主な対応については、外来棟1階中央待合ホールに設置されているモニターへ掲示しております。

患者さんが利用する設備や機器などは、日々の点検や定期的な更新を実施しておりますが、2023年度上半期では、特に以下の改善を実施しました。

〈院内における主な設備面の改善〉

- 1) 中央診療棟 A の時間外診療受付の窓口に「(時間外) 入退院受付」の案内表示を掲示



▲窓口右上に案内表示を新たに掲示(黄色矢印部分)

Nagoya Disease Information Center ナディック通信



名大病院公式 YouTube チャンネル

ナディックの利用休止について

患者情報センター（広場ナディック）は利用を休止しています。それに伴い、患者さん向けの学習会・講演会及び折り紙等の手作り工作教室についても次回の開催予定は未定となっています。皆様には大変ご不便をおかけいたしますが、ご了承くださいませようお願い申し上げます。

肝臓病教室については引き続きオンライン（名大病院公式 YouTube チャンネル）で公開しています。当院・肝疾患診療連携拠点病院ホームページのお知らせ欄からご確認ください。

がん患者さん向けの「ウィッグ・頭皮ケア相談」については外来棟1階「地域連携・患者相談センター」にてがん相談員が随時対応しております。

(問い合わせ先 地域連携・患者相談センター 052-744-2663)



特定基金 医学部附属病院支援事業へのご協力のお願い

当院では本事業を通じて、診療環境の充実、患者さんへのサービスのさらなる向上、先進的な臨床研究の推進を進めてまいります。皆さまのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

詳細は、ホームページまたは外来棟1階に置かれているパンフレットをご覧ください。

URL : <https://www.med.nagoya-u.ac.jp/kikin/hosp-kikin/>

QRコードでもアクセスできます!



禁煙のお願い

患者さんの健康をサポートすべき医療施設として、病院敷地内の全面禁煙を実施しています。皆さまのご理解とご協力をお願いいたします。

